

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272101015		
法人名	有限会社 サニーライフ		
事業所名	グループホーム サニーライフ		
所在地	〒038-2501 青森県西津軽郡深浦町大字柳田字桜田34-5		
自己評価作成日	平成29年10月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成29年11月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様も職員も笑顔の多い事業所です。入居者様一人ひとりの個性を大切に、一緒に生活するだけでなく楽しみのある居場所作りを心掛けています。入居者様の笑顔を大切に、安心して過ごしていただけるよう支援させて頂いております。また、高齢化に伴い認知力、身体的能力などの低下が見られるようになってきており、できる限り生活の中でなんらかの刺激を持っていただくために音楽を聴く、歌う、体を動かす、考えるなどレク活動を通して意欲的に参加し、楽しんでいただけるように努力をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所前に広がる海、特に夕日の沈む際が絶景である。入居者は海のある馴染みの地域で生活を続けられている。全職員で毎月個々の入居者を評価する機会を持ち、個々の担当は入居者と深く関わりを持つことで、その人らしい生活をご家族と一緒に支援している。落ち込んだ際や悩んだ際は理念に立ち返り、より良い支援につなげている。防災対策として、一人ひとりの持ち出しバックが準備され、服薬内容も都度更新され、もしもの時の備えが万全にされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいたサービスが提供できるような目の届くところに掲示し、申送り時、会議などで振り返る機会を設けている。	地域を意識した理念であり、誰でも確認できるよう、ホールと事務室に掲示している。毎年4月の定例会議で理念について研修の機会を持っている。開設当初からの思いのある理念であり、全職員が常に意識し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育所・小学校・中学校より行事がある度に招待をいただいたり、地域でボランティア活動をされている方々と交流がもてるように働きかけ実践している。	運動会・学習発表会・お遊戯会の招待や地域のお祭りへの参加、読み聞かせや婦人部の手踊りなどの訪問が定期的にある。近隣の方から野菜や魚の差し入れ、知人が遊びに訪れるなど地域交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の開催時に支援方法を観ていただいている。また地域交流ができることも啓発している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの日々の取り組みの状況や対応を報告し理解してもらおうと共に、話し合いや助言をいただいている。また会議の結果を全職員が確認し、サービスの向上に繋げている。	地域包括支援センター職員・民生委員・家族・入居者・管理者・職員の参加があり、活動状況・研修報告などを行っている。また、課題に対して助言・意見を頂くなどし、サービスの向上に努めている。地域連携に向け、交番・消防団への参加呼び掛けも継続しておこなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡を取りながら当施設の状況を相談したり協力していただいている。地域包括支援センターの職員様より運営推進会議にご参加いただいております。	地域包括支援センター・役場・社会福祉協議会と連携を取り、相談や空室状況を伝えている。運営推進会議には毎回参加して頂き、気軽に話せる関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束によって入居者様が受ける身体的、精神的弊害について理解し、拘束のないケアを目指している。	身体拘束マニュアル・内部研修があり、身体拘束をしないことを職員間で共有している。身体拘束をしないケアのための工夫を、職員間で考え、実践している。現在までに拘束はしたことがないが、やむを得ず拘束が必要な時の同意書はある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外で研修の機会を持ち、職員間で理解を深めながら情報の共有をして防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在日常生活自立支援事業を活用している。全職員が勉強しながら支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に十分に理解してもらえるように説明し、同意を得ている。解約時には、本人や家族の希望に添うように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からの声を聞くように努めているが、自分から訴えの出ない方に関しては会話の中や表情に注意し理解するように努めている。ご家族に関しては日々の面会時や電話で状況報告をしながら確認している。	毎月の面会(支払い)時、必ず職員が声を掛け、ご家族から要望・意見を頂いている。内容や対応については、定例会議録に残し実践につなげている。ご家族への近況報告は書面や電話で、担当が必ず行っている。入居時重要事項説明書にて、苦情に対して公の機関があることを家族に説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間のコミュニケーションを図り、申送り時や会議などで意見や提案などを吸い上げ、より良いケアができるように努めている。	定例会議や毎日の申し送りなどで、職員からの意見は多く、都度検討し可能なことはすぐ対応している。また、年1回管理者との個別面談により、職員からの意見・思い・相談を受けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議を利用し、法人の動向などの周知を行っている。個人面談、または時間の取れた時を利用して各職員の意見を聞くことに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修への参加や内部の研修などを通し、職員一人ひとりがスキルアップできるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ほとんど外部事業者との交流機会はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に困っている事、要望など聞き取りを行いました、ご家族からも話を伺っている。職員間でも速やかに情報を共有し検討して良い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望や不安などをよく伺いながら、色々お話をさせて頂き安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの中で最初に何が必要かを見極めて支援を始めている。行政や医療機関、他事業者からも情報提供を受けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを念頭におき、まごころを持ち人生に寄り添う気持ちでケアにあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の面会などでもお話ししやすいような対応を心掛け、情報の共有を行いながら信頼関係が築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人、知人に会いに来ていただいたり通院の際や車でドライブがてらふるさと巡りをして馴染みが途切れないように支援している。	友人・知人の面会時には写真を撮りアルバムに残す、毎年賀状を出す、受診の帰りに自宅によるなど、馴染みの関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、食堂の席の配置や日中過ごす場所に配慮し居心地の良い空間になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時は次の施設や病院への情報提供を行っている。ご家族様へも困りごとがあればいつでも相談へきて頂ける様声を掛け連絡を断ち切らないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人に担当者がいて思いや意向などを聴き把握するようにしている。また会議などで全員の情報交換をして共有し支援を行っている。	個々の担当が家族からの意見・要望を把握し、入居者の居室内の整理整頓から薬の管理も行っている。受診には担当が付き添い、主治医と情報交換し、家族へ報告している。請求書郵送時、担当が近況を報告し記載している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、また必要に応じて在宅で担当した支援事業者からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや記録、会話などから得た情報を職員間で共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のGH会議で一人一人の事を話し合い、モニタリングの見直しを行い、ケアの確認とその人に合った支援を提供できるように努めている。	定例会議内で行われるカンファレンスには全職員が参加し、プランの実践状況や課題について検討し、その人らしい生活のためのプラン作成に努めている。	プランに対する取り組みを、日々の記録に残すことで、更なる個別プランの充実とサービスの質の向上に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化、本人の言葉やケアの実践の結果を記録し情報の共有をしながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時や日々のケアから入居者様、ご家族様の要望を把握し柔軟な支援が出来るよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの訪問を取り入れたり、民生委員や地域包括支援センターから周辺情報や支援に関する情報をいただき、必要に応じて協力を働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。主治医はご本人の想いを聴きだし、事業所にも適切なアドバイスをいただいている。	地域には病院が少ないが、入居者や家族が希望する病院受診を支援している。担当者が受診に付き添い、家族と主治医と事業所の連携を確実にしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良の方が出た場合は医療機関へ連絡を行い、状況、状態を報告し指示やアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側と施設での情報交換を行い、入退院時に向けた相談を病院・ご家族と行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況の変化をご家族・医師・看護師へ報告している。施設側で対応できる範囲をご家族へ説明し以後の方針の共有を行っている。	入居の契約時に「緊急時重度化した場合の対応について」説明し、事前意思確認書に署名を頂いている。状態の変化を、家族・主治医・看護師と共有し、事業所でできることを説明し、方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部や外部の研修を受け、技術の習得に取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町の災害訓練に参加したり自主的な訓練も計画し実施している。近隣との協力体制も築いている。	入居者個々の防災グッズが玄関付近の見える場所に常備され、防災意識強化につながっている。年1回5月には町ぐるみの訓練にも参加し、火災・地震・津波など想定防災訓練を計画的に行っている。近隣の方の協力もある。地域消防団の参加協力の働き掛けを継続して行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格や人格を理解しながら、その方に合った話し方を心掛け対応している。	プライバシー、尊厳の確保に努め、声のトーンや自尊心に配慮した言葉掛けを行っている。気になる対応には、その場で管理者や職員同士注意し合っている。また会議や研修の場で理解を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各自の意思を尊重し、思いを伝えることが出来るような誘導支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活ペースを大事に臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に沿った服装や髪型が出来るように個々に担当職員を決め衣類管理他、居室の環境整備に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日にはその方の意向を確認しながら食べたい物を用意したり、行事食も取り入れ喜んでいただけよう工夫している。また山菜の下ごしらえもお手伝いいただき昔馴染みの作業のようで一生涯命取り組まれている。	山菜や野菜の下ごしらえ、食器拭きなどできることを継続支援している。誕生会・行事食・外食など、入居者の好物を食べられる機会を確保し、楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の状態に合わせた量や切り方、栄養バランス、盛り付ける器にも工夫をしている。1日の水分量や総摂取量などもさりげなく把握するように心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け、見守り介助を行い口腔ケアに努めている。夜間は除菌剤で消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	起床時の排泄の声掛けから始まりおやつ、食事の前後等声を掛け誘導を行っている。夜間は定期的に起こしたり、気配を察して誘導したり、その人に沿った支援をしている。	個々の排泄パターンに合わせ声を掛けるなどの支援をしている。入居者様全員がトイレ排泄を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックでパターンを把握し、必要に応じて医師に相談しながら排便コントロールを行っている。歩行や軽体操を毎日行ったり、水分摂取量にも注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	裸になることへの羞恥心や不安、恐怖心を考慮しながら一人一人の希望にあわせて支援にあっている。	夏は週3回、冬は週2回の入浴を行っている。入浴日以外には毎日足浴を行い、希望によりシャワー浴も取り入れたり、順番に配慮するなど、個々の希望に沿うようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムや体調に合わせて居室またはホールで過ごしていただいている。夜間は明るさなど個々に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の記録ファイルに薬の説明書を綴り、常に確認できるようにしている。変更時には申送り簿に記入し全職員が把握している。服薬後は、状態の変化に気付けるように見守りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴を考慮しながら洗濯物たたみや食事作り、ゲーム等を職員と一緒にしたり見守りを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	習慣や希望に合わせて、ご家族の協力も得ながら対応している。天気の良い日は個々の状態に合わせて可能な限り外へ出るように努めている。	家族の協力による外出や外食の機会があり、買い物やつつじ見学、ラーメン外食など本人の希望による外出支援も行っている。天気の良い日は玄関前に椅子を並べ、海を眺めながら日光浴をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関心のある入居者様は一人で管理の出来る範囲の小遣いを所持している。関心のない入居者様はご家族同意のもとお小遣い分として施設が預かり管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	荷物が届いた際にお礼の電話をしたり、ご家族からの電話に出て会話を楽しまれている方もいる。年賀状を出したり、写真を送るなど元気な姿を見ていただけるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を大切に季節や行事に合わせたレイアウトを心掛けている。居間のテレビや音楽の音量は、その時の状態に合わせるなどの配慮をしたり、ブラインドで光の調節を行っている。	月毎に季節を感じる装飾作りの担当が決まっており、季節や行事に合わせた装飾で楽しめる空間となっている。ホールは明るく、窓からは海を眺めることができ、特に夕暮れ時は絶景である。入居者は個々のお部屋で過ごすことより、ホールで一緒に過ごすことの方が多く、会話も弾んでいる。ホールには個々に落ち着く場所が確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファは、気の合う入居者様が隣に座るなど考慮して居心地を良くしている。玄関前や廊下にソファや藤の椅子、テーブルを設置しており好みの場所で過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物や好みの物、ご家族からの贈り物の飾りや写真などを置き、くつろげるように雰囲気作りをしている。	馴染みの家具、家族の写真、ぬいぐるみ、制作物などを飾り、入居者が落ち着いて過ごせる空間となっている。また、担当者と一緒に模様替えをするなど工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールには大きめな日めくりカレンダーを掲示している。個々の状態に合わせベットの高さなど自立にて起き上がりが楽なように対応している。またトイレ、居室がわかりやすいように表示している。		